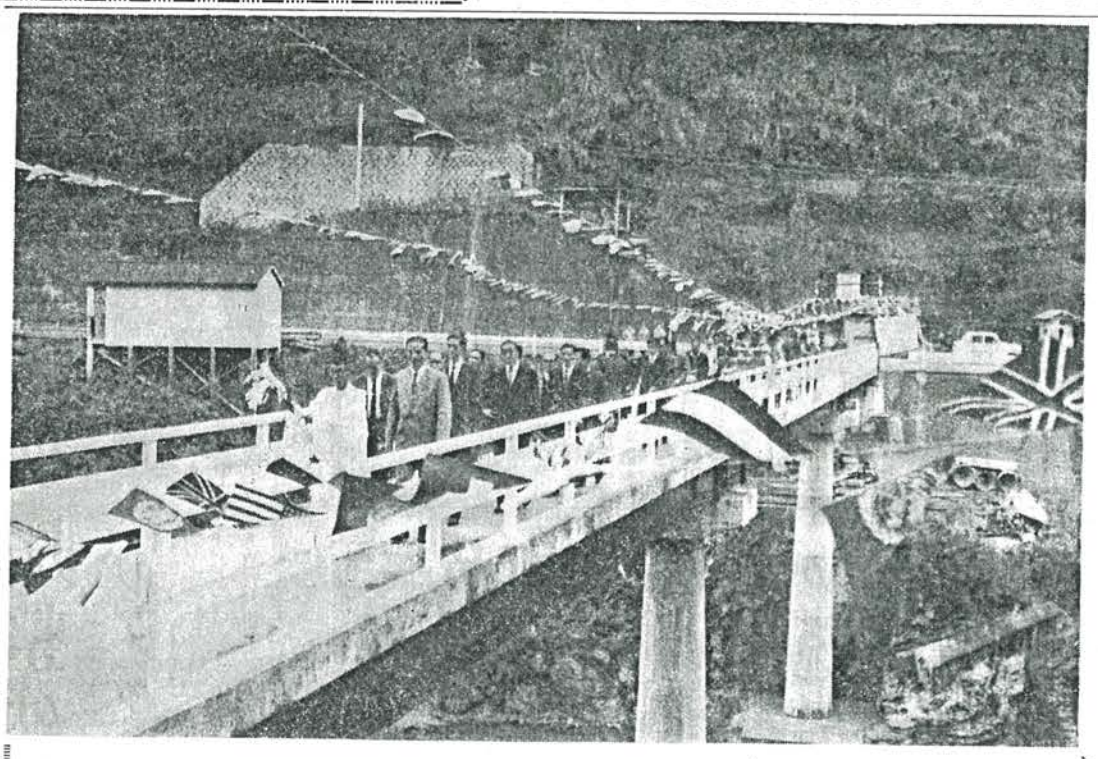
紀元 2631年
西歴 1971年

大豊の館報

昭和46年元旦



☆……70年代の幕あけで村の進むべき方向を見極めた。……☆

☆……いま厳粛に、静粛に昭和のこの橋を渡って71年にはいった。……☆

新時代の村づくり

結束を強固、過疎と対決

大豊村長　西岡治郎

村民の皆さん、新年おめでとうございます

一九七一年の新春を迎うるにあたり心からおよろこびを申し上げます。

御承知の通り過疎、過密問題は我が国経済社会の急激な進展に伴って生じた全国的な地域問題であり、その解決は内政の年といわれる七十年代の最大の課題の一つとなっております。なかでも過疎問題は、いまや極めて深刻であり地域社会の基盤をゆるがし、従前の生活水準および生産機能の維持を困難にし、町村の存立すら危うくしているのであります。

このような事態に対処するため、第六十三回国会で過疎地域対策緊急措置法が成立し、昨年度から過疎地域に対する総合的な行財政上の特別措置が講ぜられることになりました。

この法律の成立を契機として、過疎問題の解決のために明るい展望が開かれたといってよいであろうと存じます。

本村もまた、既に決定発表した大豊村振興計画をもとに国県の指導を受け大豊村過疎地域振興計画を策定、議会の議決を得て、昨年度より実施しておりますが本年度からさらに本格的な施行の段階に入るものであります。早明浦ダム建設を契機に嶺北五ケ町村は嶺北地域開発協議会を結成し「嶺北は一つなり」の理念のもとに広域行政を推進しており相当の成果をあげておりますが、さらにこの結束を強固にし運動を展開すべきであろうと考えます。そうすることにより、高知市を中心とする広域市町村圏の嶺北地域としての位置づけをさらに不動のものにしなければなりません。

村是であります「和衷協力一致団結」によりまして本年も大いに頑張ろうではありませんか。村民の皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げ年頭の御挨拶と致します。

誇りと自覚をもって

元旦を乾杯せん

議会議長　鈴木友茂

明けましておめでとうございます。村民の皆様御健康で幸福な一九七一年の新春を御迎え致しまして、かがやく希望の今日、祖先や神仏を礼拝され元朝のお祝いをされたことと存じます。

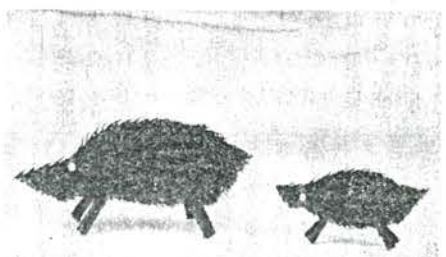
大豊村も「和」の偉力の中に順調な発展と成長をとげ、県下でも致ない合併の村として進展の実績を挙げてきました。この大いなる実績の裏には、地域の諸賢先覚者の偉大なる指導性とあらゆる困難を克服して実践に血のにじむ努力を傾注された村民各位の総力が結実したことを想起し、あとにつづくものとしてこれらを範とし、今後お互いの発展と躍進に期待申し上げるものであります。

昨年は十号台風という苦難の天災に見舞われ、造林災害などは今なお復旧の始末も出来ていない状態で、それぞれ苦しんでいますがこれを反省致します時に毎日心掛けて天災の試練に備えるの用意がなくてはなりません。文化、教育、産業とそれぞれ目まぐるしく進展する世界の情勢に呼応する精神と努力が必要で、年の初めに新たなる心意気を示す要ありと存じます。

今年はまた選挙の当り年で我々に身近な地方選挙も行なわれます。村民の皆さん、ここが主権在民の民主的権利発揚の場所であります。明るく正しく美しく正々堂々と行使し、すぐれた代表者を選んで明日の大豊村づくりに備えようではありませんか。

まだまだ基盤整備も各面に建設する事業が各地区ごとに残っております。この際視野を大にして明日への大道と正義の歌を謳歌してまっしぐらに進もうではありませんか。そしてまた、今年こそは交通事故の一つもない年であるように祈ります。一万三千村民の御健康と御多幸の昭和四十六年であられますようお祈り申し上げます。終りに当りまして我々は大豊村民の一人であることの誇りと自覚の上に立って元朝の乾杯を挙げましょう。おめでとうございます。

辛亥



日本一大杉の落葉で作った大豊の民芸品

ダイヤル式電話

二十二日から開通

嶺北杉報話局では一月二十二日午後三時から、待望のダイヤル式通話を開始します。この結果電話番号も変更になります。杉局は二局の四ケタの番号、木山局は頭へ二の字のつく四ケタ番号、田井は二局の頭へ0のついた四ケタ番号となります。詳細は追ってお知らせします。

明けましておめでとうございます

大豊村議会
議長　鈴木友茂
副議長　上村憲正

総務常任委員会
委員長　北村寿夫
副委員長　三谷一実
委員　三谷正巳
〃　岡崎啓
〃　前田益喜地
〃　小笠原幸恵
〃　松岡勝英

建設常任委員会
委員長　桑名芳雄
副委員長　豊永茂晴
委員　上村憲正
〃　上村周一郎
〃　西岡丈

産業経済常任委員会
委員長　畑山善郎
副委員長　山中茂栄
委員　秋山弘安
〃　西村彦四郎
〃　鎌倉邦彦
〃　美濃英由

教育民生常任委員会
委員長　寺石由雄
副委員長　松岡春美
委員　釣井正亀
〃　大地幸二郎
〃　小松俊雄
〃　西村育夫

議会事務局
局長　三谷博親
〃　補佐　重森元亀

見事・秩序整然――

大杉中のヘルメット通学

凛々しくヘルメットに身を固め秩序整然と自転車通学する大杉中の生徒たち

ことしこそ、全村民の力で交通事故のない平和でしあわせな村をつくりましょう。

昨年十一月末までの本山署管内の事故件数は一六〇件で、死者一〇名、傷者二七七名の悲しい記録を出しております。このうち大豊村内の事故は九四件、死者七名、傷者一七二名となっており、圧倒的に多い数字を示しております。国道三二号線は村民にとってまさに魔の道路？　となっております。村民のひとりひとりが絶対に事故を起こさぬ覚悟を新たに致しましょう。

写真は、折りからの寒風も何ものぞといわぬばかり

151人がおとなの仲間入り

1月15日成は人の日

本年二十六年一月十五日までに生まれた男女です。戦前は国民の義務として男子は兵役がありましたから、徴兵検査が終わるまで実際には成人とは云われませんでした。戦後は民法第三条の「満二十年ヲ以テ成年トス」という条文どおり、法律上独立の社会人としての地位を獲得します。成人となった方々は、おとなになったことを自覚し、未成年者だったときの法律上の保護は取り去られます。家庭にあっても両親の保護に甘えず自ら生きぬこうとする意欲と、成人としての判断と責任をもって行動することが要求されるわけです。

はたちですしっかり選ぼう初選挙

必ず役場へ
遺族年金と給与金

遺族年金および遺族給与金の額が改定になりました（昭和45年10月2日職権改定）ので、証書の書きかえを役場を通じて行なっております。該当者は証書を役場へご持参下さい。

なお公務扶助料は、郵便局ですのでお間違いのないように。

自覚してみずから生きぬこうとする青年を祝い励ます国民の祝日です。

村では、中央公民館で式典を行ない、記念品を贈呈して励ましの行事を行ないます。村民の皆さんも全戸に日の丸をあげて、これら百五十一名の方々の前途を祝福致しましょう。

ことしの該当者は、昭和二十五年一月十六日から、

四国の島から飲酒運転をしめだそう

▽▽▽▽▽▽▽ 正しい選挙を

ことしは選挙のあたり年です。主なものをひろってみますと

四月十一日県議会議員選挙
四月二十五日大豊村議会議員選挙
六月二十七日参議院議員通常選挙
十一月高知県知事選挙

以上のほかにも身近な選挙が予想されます。新しく有権者となられた方々をはじめ、若い人達の棄権がやかましくいわれているとき、ことしこそは、「明るく正しい選挙」の模範村となるよう今から勉強しておきましょう。

正月七日は七草（ななくさ）

「七草」とは、七種の草のことですが、正月七日の朝に七種の草を入れた〝ななくさがゆ〟を食べると邪気をはらい万病を除く、という中国伝来の行事です。

当初は、この七草も草ではなくて七つの穀物―いねむぎ・まめ・あわ・あずき・きび・こむぎ―をかゆにたいたものといわれていますが、鎌倉時代にはそれがいつしか七草―せり・なずな・はこべ・ほとけのざ・おおばこ・だいこん―などの野菜や野草にかわり、そして今日ではなんでも七草であればよいということになっているようです。

ところで、このななくさがゆを今日的に考えてみますと、冬季にはいきおい不足がちとなるビタミンCの補給のために野菜をこのような形で食べること、またお正月はどこの家庭でも濃厚な料理がつづき、これが一応かたづく七日頃胃腸の過重負担を調整するためにとかく不足がちだった新鮮な野菜で胃腸をととのえるということです。このように考え合せてみますと〝ななくさがゆ〟の風習もわたくしたちの先祖が、長い年月をかけて学びとった〝生活の知恵〟といえるようです。

〃〃〃〃〃〃〃 節度ある飲酒を

お正月はお酒を飲む機会が多くなります。「酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律」が公布されてからことしで十年になりますが、まだ一般には徹底していないような場面をよく見受けます。

この法律は、過度の飲酒が個人的、社会的に及ぼす害悪を防止して、公共の福祉に寄与することを目的としており、第二条では『すべて国民は、飲酒を強要する風習を排除し飲酒についての節度を保つように努めなければならない。』とあります。とくに車を運転する人に〝少しぐらいは大丈夫だよ〟などとすすめることも道路交通法は禁じています。

編集後記

◆明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく……。

◆除夜の鐘が鳴ると、もう新年といい、新しい年を迎えたことになります。一夜が明ければ、きのうは去年であり、きょうはことし。

◆たちまちのうちに年去り年来たる。時の経つのがこんなにあわただしく、時代のうつり変りに深い感慨を覚えずにはいられません。

◆ゆく年を回顧して、新しい年への希望の出発点としたいものです。

◆ことはあるまいと、お酒を飲んで車を運転しないように……。（中西）

くらしのコーナー

一月に入ると脳卒中の多い季節となります。

ことしこそ本県にもっとも多いといわれる脳卒中を追放するよう注意しましょう。どうしたらよいか以下そのあらましを挙げてみました。

新年に誓うこと
脳卒中を予防しよう

脳卒中は……、現在日本で最も死亡率の高い病気ですが、特に高知県では全国平均に比べ五割も多く脳卒中で亡くなっています。また幸い命をとりとめても、手足が不自由になったり、舌がもつれたり非常に恐しい後遺症を残すことが多いことも御存知のことでしょう。

◎脳卒中は高血圧から

脳卒中のなかには、高血圧と関係のないものもありますが矢張り高血圧の人に多く起こります。以前に比べ急に倒れてそのまま……というものよりもじわじわとくる型が増えてきたようですが、その場合でも血圧の高い人に多いといわれています。

◎血圧の高い人は

冬には特に注意が必要です。定期的に血圧を測ってもらい、必要なときには治療を受けましょう。具合が良いとか、悪いとか自分の感じだけで判断せず、必ず血圧を測ってもらって下さい。一時的に高血圧になったのでなく、ずっと高い場合は治療にも根気が必要です。それが脳卒中予防の第一歩です。

◎寒さに対して

高血圧に寒さは禁物です。外出時には十分な防寒の用意を…、また夜のトイレは脳卒中の原因になります。暖かい屋内か、できなければ部屋の中で用が足せるように、暖房も一部分だけを暖めるものより部屋全体を暖めるようなものを工夫しましょう。

◎食事について

特に冬だからというのではありませんが、塩分をできるだけ少なく、そして若い頃から肉、魚など多くとってきた人以外は積極的に肉、野菜を多く食べて下さい。野菜と穀類だけでは身体の抵抗力も弱くなり、血管ももろくなって脳卒中が起こりやすくなります。

◎脳卒中を予防しよう

香美郡で脳卒中調査をしたとき、冬の次に脳卒中の多かったのは、田植、刈入れの農繁期のあとでした。仕事をしていて疲れたと思ったときのひと休みも大切です。

（住民課保健係）

明けましておめでとうございます

村長　西岡治郎
助役　門田盛一郎
収入役　山中万石
副収入役　筧義孝
行政課長　小笠原武英
〃　補佐　秋山司
〃　〃　平尾俊一郎
住民課長　大地寿穂
〃　補佐　松岡行雄
事業課長　松高豊繁
〃　補佐　小笠原英彦
〃　〃　西岡仁司
東豊永支所長　三村利重
西豊永〃　小笠原精一
天坪〃　西岡富美子

教育委員会

教育委員長　小笠原賀穂
教育長　渡辺盛男
教育次長　三浦紀秀

農業委員会

会長　門田仁一
書記長　小笠原俊信

選挙管理委員会

委員長　近藤正年
書記長　小笠原武英
書記　都築幹夫
代表監査委員　北村長徳
監査書記　桑名啓三郎

外職員一同